

園長198名に
緊急アンケート

震災後、各園が見直した 災害時の対応策とは？

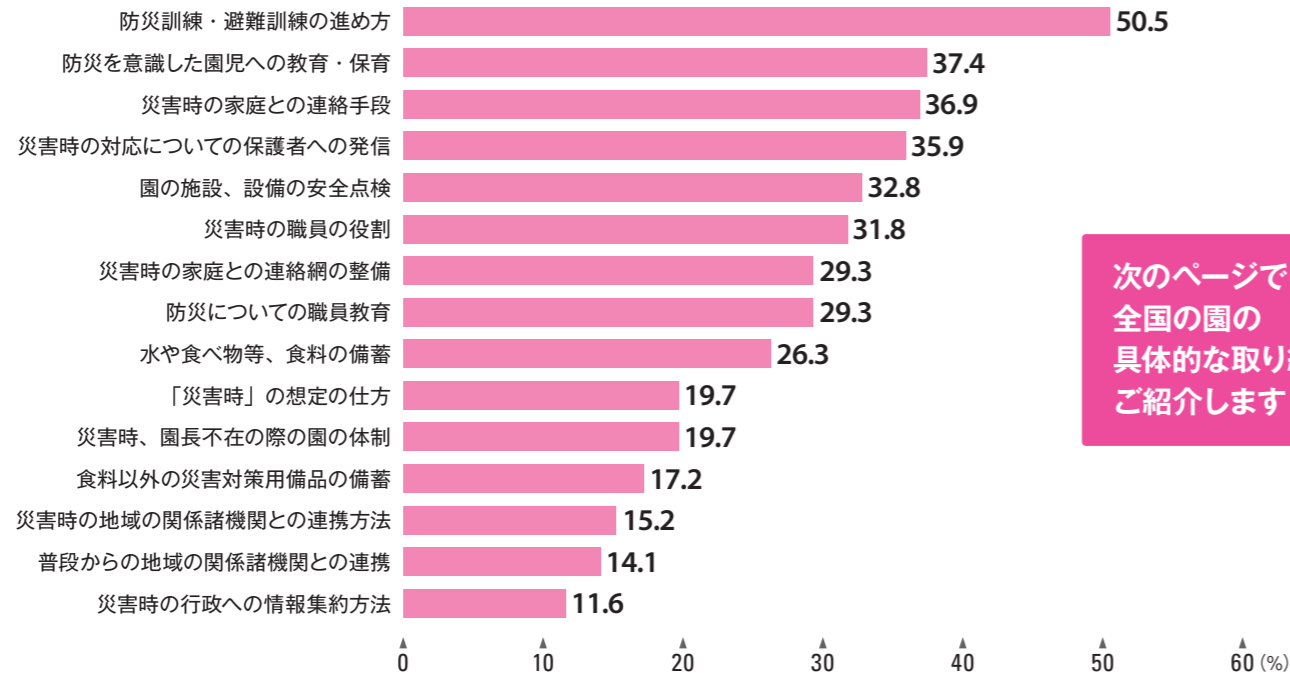
ベネッセ次世代育成研究所は、2011年5月末、全国の幼稚園・保育所・認定こども園の園長先生を対象に、園の災害時の対応策についてアンケートを行いました。また、同時期に0～5歳児をもつ3,096名の母親に「震災による子育てへの影響」についての調査も行っています。園の災害時の対応策を考える材料のひとつとして、ぜひご活用ください。

引用・転載時のお願い 本調査の結果を引用される際には、該当のデータの調査名称を記載してください（例：ベネッセ次世代育成研究所「『これからの幼児教育 2011年夏号』読者アンケート（2011）」）。

見直したのは「訓練の進め方」や 「防災を意識した保育」「家庭との連絡手段」

Q 東日本大震災後、災害時の備えとして、見直したり、新たに加えたものはありますか。

図1 震災後、災害時の備えとして見直したり、新たに加えたもの



注1:複数回答。 注2:「無答不明」「その他」は除外。

★震災後、災害時の備えとして見直した項目や新たに追加した項目について園長先生等に聞きました。最も高かったのは「訓練の進め方」で約5割の園が選択しています。3割以上の園が「防災を意識した保育」や「保護者との連絡手段や発信」、「園の安全点検」や「職員の役割」を挙げています。なお、

同じアンケート項目を使って「災害時の備えとして知りたいこと」を聞いたところ、「備蓄」について知りたいという声が高く、今後、園としての対応が必要だと考えている園長先生が多いことがわかりました。

次のページでは
全国の園の
具体的な取り組みを
ご紹介します

全国の園で行われている 防災の取り組み例の一部をご紹介します

見直したり、付け加えたりしたこと（図1の設定に対する自由回答の中から一部を抜粋）

訓練を見直したり、想定ケースを追加した

同一建物にある区民ひろばとの合同避難訓練を実施しました。（東京都／公立幼稚園）
災害時は携帯電話などが使えなくなるので「園児は職員がまた、園から連絡ができない場合の園 しっかり守って避難するので、まずは 園の第1次避難先を周知し、保護者の 保護者自身が安全な所に避難してほしい」旨を改めて伝えました。そのうえで、引き取り訓練の回数を増やしました。（東京都／公立幼稚園）
園のどの場所が安全か危険かを再度確認し、園外保育の場合には、あらかじめ避難経路などを見直すことを徹底しています。（三重県／私立保育園）

地域との連携を強化した

地域と炊き出しの練習をいっしょに行うなどして連携を強化していくつもりです。また、避難方法などを子どもが理解しやすいように、園で「大地震がおこったら」の絵本を作成しようと思っています。（奈良県／公立幼稚園）
地域の防災防犯協議会と連携し、園内の安全点検の項目を増やしたり、防災訓練の進め方を再確認し定期的にシミュレーションするようにしました。（奈良県／公立幼稚園）
併設の小学校にも協力をおぎ、合同の避難訓練を年3回行うこととなりました。避難経路の再検討や、よりスムーズに情報が伝わるよう連絡網づくりを行っています。（静岡県／公立幼稚園）

備蓄品の内容や量を見直した

食材（米、みそ、乾めん等）の備蓄を行いました。また、紙オムツ、おしりふきの備蓄量を確認し、さらし（おんぶひも）を追加発注しました。（東京都／公立保育園）
簡易トイレ用に、ベットのトイレ用の砂を購入しました。固めて、家庭ゴミとして処理が出来ますし、紙製の流せるタイプのものであれば、下水道が復旧したあと、トイレに流すことができます。（東京都／私立幼稚園）

家庭との連絡方法を見直した

停電に備え、電話はアナログ回線を導入。また、メール配信システムを整備し、ツイッターのアカウントも取得しました。（愛媛県／私立幼稚園）
園のパソコンから保護者の携帯電話に一齐にメールが送れるシステムを導入しました。（東京都／公立保育園）

園の安全対策を進めた

今年度は毎月、いろいろな形で訓練を行い、いつも安全に行動できるようにしていきたいと思っています。すべての窓ガラスに飛散防止の防災フィルムをはるなど、具体的な対策も進めています。（埼玉県／私立幼稚園）

行政との連絡体制を整備

市の災害対策本部と園長を直接結ぶホットラインが開設されました。また、なるべく外遊びを増やし、遊びの中で避難訓練に生かせるような活動を自然に取り入れようとしています。（沖縄県／私立保育園）

出典（12、13ページ）：『これからの幼児教育』2011年夏号 読者アンケート

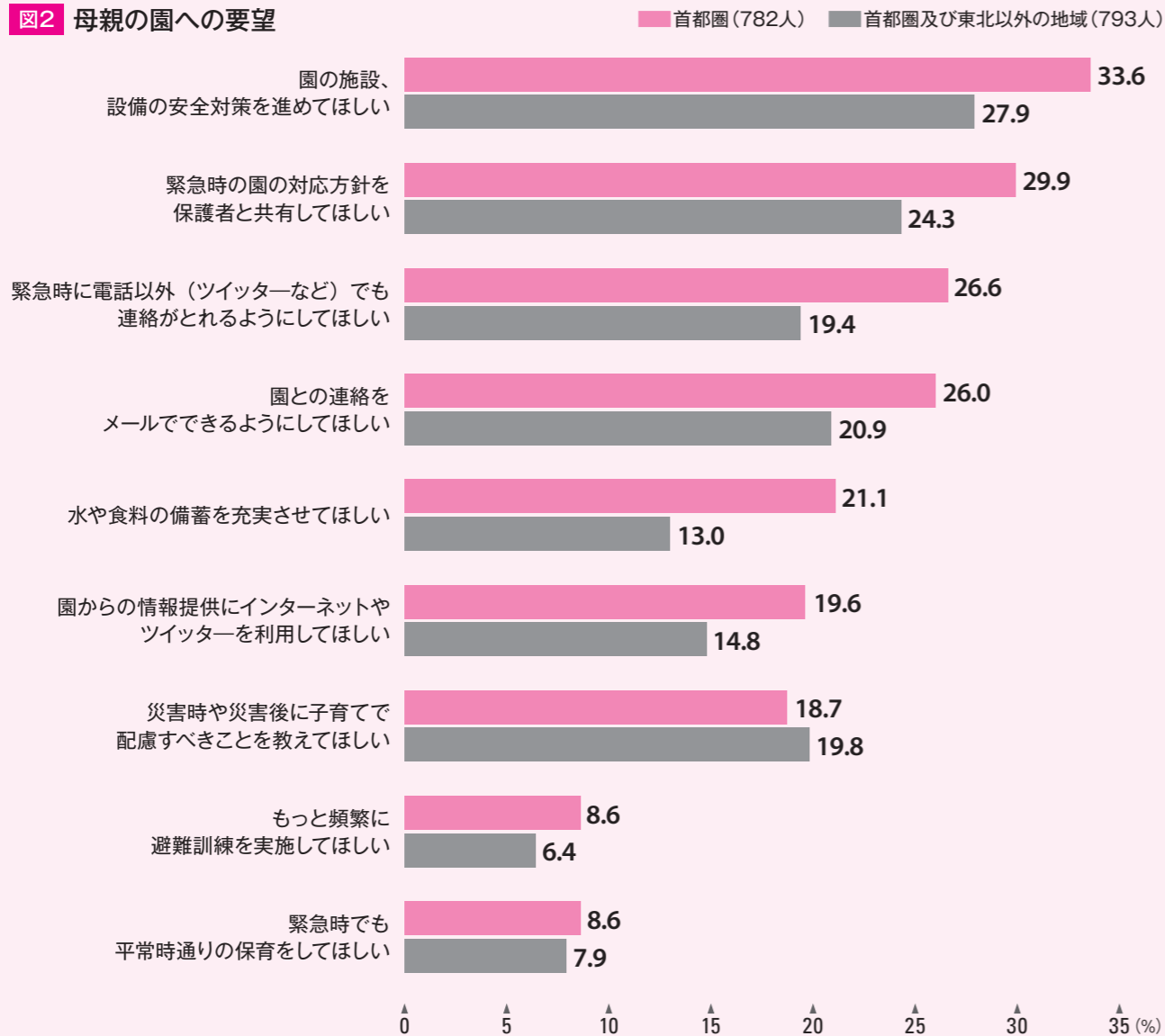
調査テーマ：東日本大震災を受けて、各園で見直した災害時の対応策と内容。
調査対象：幼稚園・保育所・認定こども園の園長 198名
調査地域：全国

調査時期：2011年5月30日～6月17日
調査方法：『これからの幼児教育』2011年夏号を郵送した際に自記式アンケートを同封し、FAXで回収した。

母親
3,096名
アンケート

保護者が園に求める対策は「設備の安全対策」や「緊急時の連絡や対応」

Q お子さまが現在通っている幼稚園・保育園・その他の園・施設について、あなたは次のことをどう思いますか。



注1:「とてもそう思う」の%。 注2:全20項目のうち、緊急時や災害時の対応に関連する9項目のみ図示。 注3:子どもを園に通わせている母親のみ回答。

★0～5歳児をもつ母親を対象に園への要望を聞きまし。首都圏と、首都圏及び東北以外の地域で園への要望を比較したところ、「設備の安全対策」や「緊急時の連絡や対応」、「水や食料の備蓄」などで、首都圏の要望が特に高いことがわかりま

した。首都圏の上位5項目についてはそれ以外の地域と比較すると、5ポイント以上の差がみられ、震災の影響により、特に首都圏の保護者の緊急時の対策への意識が高まっているよう

出典:3.11 東日本大震災の影響 子育て調査

調査テーマ:東日本大震災後のお子さまの生活や様子、母親の子育て感情など

調査対象:0～5歳児をもつ母親(3,096 サンプル)

調査地域:首都圏:東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県

首都圏および東北以外の地域:北海道、愛知県、大阪府、兵庫県、福岡県

調査時期:2011年5月27日、28日

調査方法:インターネット調査

調査データを踏まえ、園の防災・危機管理について考える

園内、そして地域で連携し 防災に必要な「応用力」を高めましょう



今回の調査結果について、企業や自治体の防災・危機管理について研究や提言を行っているクライシスマネジメント協議会の長田逸平専務理事に、園に求められる防災・危機管理の考え方をうかがいました。

クライシスマネジメント協議会 専務理事

長田逸平

おさだ・いっぺい

日本経済団体連合会の地域政策グループ長などを経て現職。同協議会は、企業や団体と行政の連携によって、大規模・広域災害に対処する社会環境の整備に取り組んでいる。

防災は園だけでなく 地域全体で取り組むもの

地震や感染症の流行などの災害に対して、被害を小さくし、いち早く復旧するための社会環境を整えるのがクライシスマネジメントです。

地震のような大規模災害では、たまたま自園が被害をほとんど受けなかったとしても、近隣の園が大きな被害を受けることもあります。被災後は地域全体が協力して子どもたちの安全を確保していくことになりま

すから、平時から自園だけでなく地域やほかの園と連携して防災を考え

ていく視点が欠かせません。防災備蓄なども、自園だけで対策を進めるのは予算面などで難しいこともあるでしょう。そんなときは近

隣の園、小学校、福祉施設などと連携し、地域の声として行政などに投げかけていくことも園経営者の役割ではないでしょうか。いつも子どもと向き合い、子どものことを一番わかっていていくことも園経営者の役割ではないでしょうか。いつも子どもと向き合い、子どものことを一番わかっていていくことも園経営者の役割ではないでしょうか。いつも子どもと向き合い、子どものことを一番わかっていていくことも園経営者の役割ではないでしょうか。

災害に対応する現場力を語り合いの中で育む

避難訓練を行ったり、防災備品をそろえたりすることも、もちろん重要な防災活動です。しかし、気を付けていただきたいのは、それを型どりの取り組み、マニュアルづくりで終わらせないということです。災害は予想した通りに発生し、想定通りに対応できるとは限りません。想定外の事態には応用力、現場力が

必要です。現場力を高めるためには、定期的な訓練だけでなく、「もしもこんな場面で、こんなことが起こったらどうする?」と、一人ひとりの保育者が多様な角度から災害場面を想定し、それに対する対策を話し合うのが有効です。経験の異なる保育者が語り合うことで、防災に対する視点が重層化して非常時の対応力が高まるだけでなく、保育者としての育ち合いにもつながるでしょう。

ポイント

- ◎地域と連携し、要望を大きな声としてまとめていく
- ◎保護者に対しても必要に応じて支援を要請する
- ◎職員間で語り合い、「想定外」に対応する現場力を高める

